



# PFU 環境報告書 2025

## 会社概要

会社名 : 株式会社 PFU  
資本金 : 150 億円  
売上 : 1,275 億円 (2023 年度連結)  
社員数 : 4,247 名 (PFUグループ 2024 年 5 月現在)  
設立 : 1962 年 5 月 (創業 : 1960 年 11 月)  
株主構成 : 株式会社リコー  
本社所在地 : 石川県かほく市宇野気ヌ 98-2

## 主要な事業内容

### ■ドキュメントイメージング事業

- ・ドキュメントイメージング関連商品の企画、研究、開発、製造、販売、保守
- ・ドキュメントサービス商品の企画、開発、販売、保守

### ■インフラ・サービス&インテグレーション事業

- ・IT インフラの構築・運用、個別システム開発
- ・IT 機器の販売、メンテナンス、キッティング

## 主要事業所

本社 : 石川県かほく市  
横浜本社 : 神奈川県横浜市  
ProDeS センター : 石川県かほく市  
関西オフィス : 大阪府大阪市  
東海オフィス : 愛知県名古屋市

## PFU グループ (2025 年 4 月 1 日現在)

### ・関係会社 (国内全 4 社)

PFU IT サービス株式会社  
PFU クオリティサービス株式会社  
PFU テクノワイズ株式会社  
PFU ライフエージェンシー株式会社

### ・関係会社 (海外全 9 社)

PFU 上海計算機有限公司  
江蘇南通必優信息系統有限公司  
PFU America, Inc.  
PFU Canada Inc.  
PFU(EMEA) Limited  
PFU Hong Kong Limited  
必福优信息设备(深圳)有限公司  
PFU Asia Pacific Pte. Ltd.  
PFU Arabia Information Technology LLC

## 目次

02	トップメッセージ
03	環境方針
04	環境マネジメントシステム
05	内部監査・外部審査
06	サステナビリティ推進
09	PFU 環境行動計画
16	環境・社会貢献活動
19	情報開示
20	環境パフォーマンスデータ
26	主な受賞履歴、認証等

### 掲載期間

本レポートの掲載対象期間は、2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日です。2024 年 3 月以前もしくは 2025 年 4 月以降の内容も一部含まれます。

本レポートは、株式会社 PFU 及び PFU グループの環境に関する情報を開示するために制作しました。

**「出来ぬ理由をあげるなら、出来る方法を考えよ」  
世の中の課題解決に挑戦し、貢献し続ける会社を目指します**



PFU は、1960 年のウノケ電子工業の設立以来、常に革新を追求し、情報処理技術の発展に寄与してまいりました。スキャナーを始めとするドキュメントソリューション分野においては業界のリーダーとしての地位を確立し、IT システムの構築・運用・保守サービスについても多くの企業や組織に信頼されるパートナーとなっています。この歴史は、私たちの誇りであり後の成長の基盤でもあります。

今後の展望として、私たちは「デジタル変革の推進」を掲げ、さらなる進化を目指します。AI やクラウド技術の進展に伴い、私たちの製品やサービスも進化させ、より多くのお客様に価値を提供していく所存です。特に、データの活用や業務の効率化を実現するソリューションを強化し、お客様のデジタル化を支援してまいります。

また、持続可能な社会の実現に向けて、環境に配慮した事業活動を行い、社会貢献活動にも積極的に取り組んでいきます。私たちの技術が、より良い未来を創造する一助となることを願っています。

最後に、社員一人ひとりの力が PFU の成長を支えると信じています。多様性を尊重し、全ての社員が活躍できる環境を整え、共に成長していく企業文化を築いていくことをお約束します。

PFU はお客様の業務プロセス改革・DX に貢献するエッジデバイスを進化させ、それを支えるサービスを提供し、創業の地である石川本社と首都圏にある横浜本社を起点に日本から持続可能な世界の発展に貢献してまいります。



代表取締役 社長執行役員 平原 英治

リコーグループでは、実施すべき環境保全に関する基本方針と行動指針を「環境綱領」として明示しており、PFU はこの方針のもとに環境活動に取り組んでいます。

## 環境綱領

### 基本方針

リコーグループは、環境保全は我々地球市民に課せられた使命と認識するのみならず、環境保全活動と経営活動を同軸であるとならえ、自ら責任を持ち、全グループをあげてその活動に取り組む。

### 行動指針

#### 1. 高い目標

法規制の遵守はもとより、自らの責任において、社会の期待を先取りした高い目標を設定し、その実現を通じて経済価値の創出に努めていく。

#### 2. 環境技術開発

顧客価値を創造し、広く社会にも活用される革新的な環境技術開発をすすめていく。

#### 3. 全員参加の活動

すべての事業活動において環境への影響を把握し、全員参加で汚染予防や、エネルギーおよび資源の有効利用について継続的改善を行っていく。

#### 4. プロダクト・ライフサイクル

商品とサービスの提供にあたっては、調達・生産から販売・物流・使用・リサイクル・廃棄に至るすべての段階における環境負荷の低減に努めていく。

#### 5. 意識向上

一人ひとりが広く社会に目を向け、積極的な学習を通して意識向上を図り、自ら責任を持って環境保全活動を進めていく。

#### 6. 社会貢献

環境保全活動への参画・支援によって、持続可能な社会の実現に貢献していく。

#### 7. コミュニケーション

ステークホルダーと連携した環境保全活動を展開し、積極的なコミュニケーションを通して社会の信頼を得る。

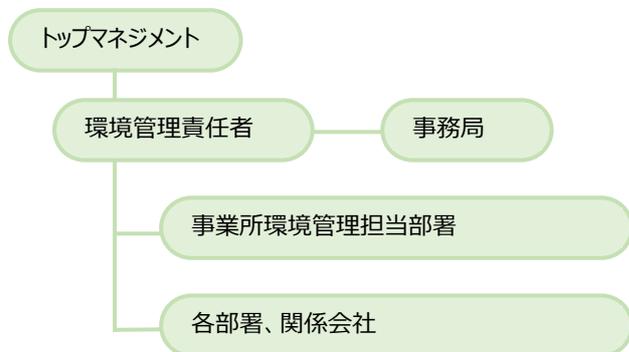
1992年2月制定 2008年2月改定

# 環境マネジメントシステム

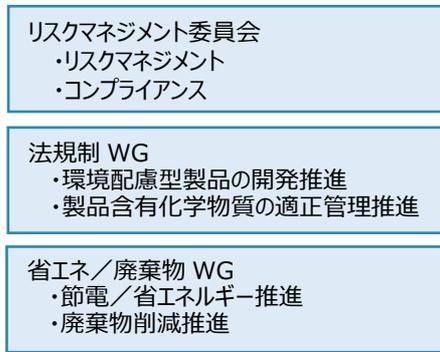
## 環境マネジメント体制

PFU では、リコーグループ環境綱領およびリコーグループスタンダードに基づく環境マネジメントシステムを推進しております。

### <環境マネジメント組織>



### <社内委員会・WG体制>



## 外部認証の取得実績

ISO14001 環境マネジメントシステム規格が発行された 1996 年 10 月に、当時の笠島事業所で認証を取得しました。その後、認証事業所の拡大に取り組んできました。リコーグループの一員になったことにより、2022 年 12 月に PFU、2023 年 6 月に PFU IT サービスとしての独自認証を返上し、リコーグループ ISO14001 に統合しました。

- 1996 年 10 月 : 笠島事業所(石川県)
- 2001 年 05 月 : 本社/石川開発センター(石川県)、東京開発センター(東京都)
- 2004 年 04 月 : 東京本社 (神奈川県)
- 2006 年 02 月 : 関西オフィス(大阪府)、東海オフィス(愛知県)、新橋オフィス(東京都)
- 2006 年 11 月 : ProDeS センター(石川県)、PFU テクノワイズ高松工場(石川県)
- 2008 年 10 月 : 全国の営業・保守サービス拠点(21 拠点)
- 2010 年 03 月 : PFU 上海計算機有限公司 (中華人民共和国 上海市)
- 2015 年 03 月 : 横浜本社 (神奈川県) (東京本社及び東京開発センターを統合)
- 2016 年 04 月 : PFU クオリティサービス株式会社(神奈川県)
- 2022 年 12 月 : PFU としての認証をリコーグループ ISO14001 に統合
- 2023 年 06 月 : PFU IT サービス株式会社(神奈川県)としての認証をリコーグループ ISO14001 に統合



本社



横浜本社



ProDeS センター

## ISO14001 認証内容

登録範囲 : 株式会社 PFU および PFU IT サービス株式会社、PFU クオリティサービス株式会社、PFU テクノワイズ株式会社、PFU ライフエージェンシー株式会社、PFU SHANGHAI CO., LTD. におけるコンピュータ、周辺装置、応用装置のハードウェア並びにソフトウェアの設計・開発、製造、販売、保守

登録番号 : JQA-E-70001

登録日 : 1996 年 10 月 29 日

改訂日 : 2024 年 12 月 20 日

登録機関 : 一般財団法人 日本品質保証機構



## 内部監査・外部審査

### 内部監査

内部監査は、社内監査員に認定された社員により実施しており、環境方針に沿って各部門が立てた環境目標の実施や法令を含む各種の決まりを守っているかどうか等を確認し、不具合の改善や良い活動の社内への普及に役立てています。2024年10月3日～10月25日に14部門を対象に実施し、要改善点12件、良い事例19件を抽出しました(法令違反なし)。

### 外部審査

リコーグループ ISO14001 への統合に伴い、2022年度より日本品質保証機構(JQA)によるリコーグループとしての審査を受けています。審査は毎年実施されますが、審査対象組織は日本品質保証機構(JQA)によるサンプリングで決定されるため、PFUは2024年度の審査対象組織ではありませんでした。リコーグループの審査結果を踏まえて、環境マネジメントシステムの継続的改善を図っております。

### 2024年度 内部監査・外部審査結果

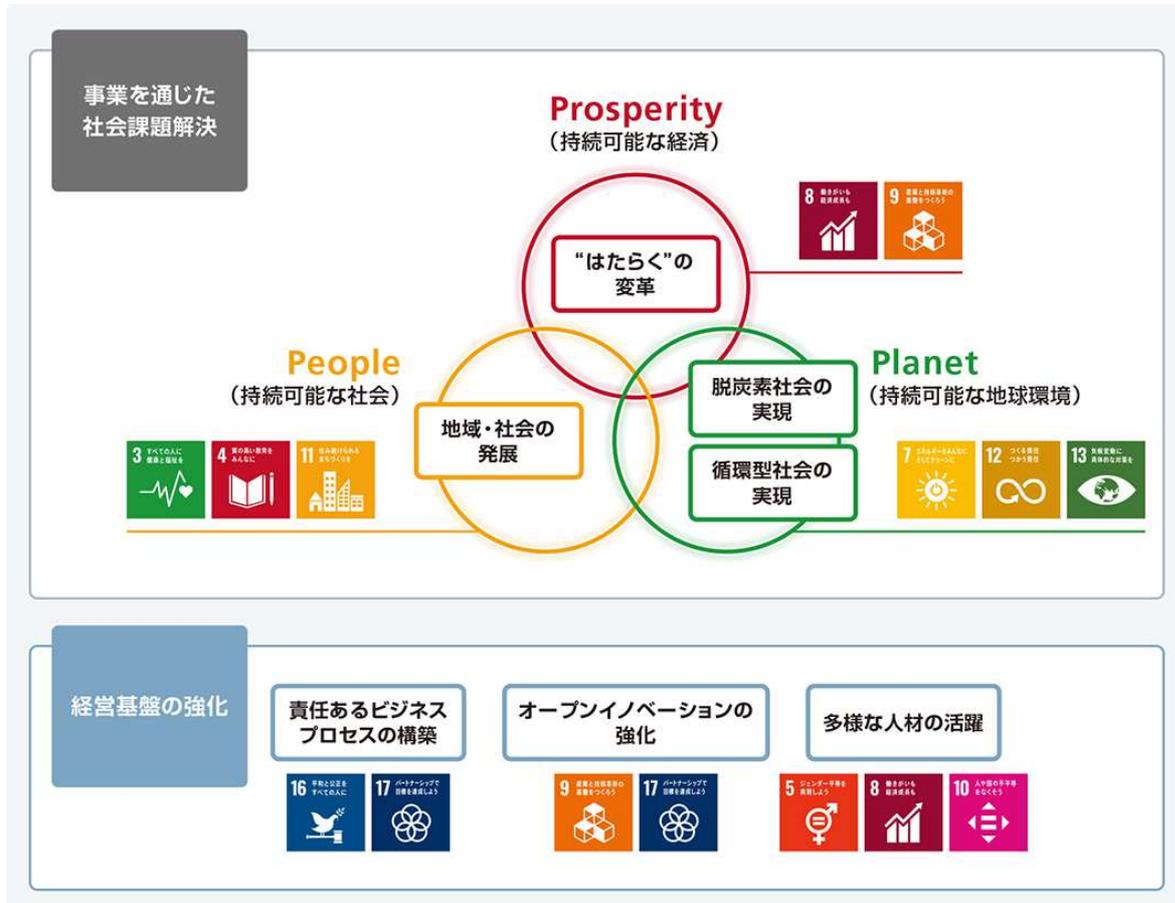
(件)

区分	内部監査			外部審査		
	不適合	要改善点	良い事例	不適合	要改善点	高評価
検出件数	0	12	19	-	-	-

## 2023 年度から 2025 年度の活動計画

リコーグループでは、「事業を通じた社会課題解決」とそれを支える「経営基盤の強化」の 2 つの領域で 7 つのマテリアリティを特定するとともに、各マテリアリティに紐づく ESG 目標を設定しています。PFU では、リコーグループ ESG 目標と整合した ESG 目標を設定しています。

### リコーグループの 7 つのマテリアリティ



### 【戦略的意義】

事業を通じた社会課題解決	<b>“はたらく”の变革 Creativity from Work</b>	人とデジタルの力で、はたらく人やはたらく場をつなぎ、お客様の“はたらく”を变革するデジタルサービスを提供し、生産性向上・価値創造を支援する。
	<b>地域・社会の発展 Community and Social Development</b>	技術 × 顧客接点力で、地域・社会システムの維持発展、効率化に貢献し、価値提供領域を拡大する。
	<b>脱炭素社会の実現 Zero-Carbon Society</b>	バリューチェーン全体の脱炭素化に取り組み、カーボンニュートラルへの貢献を通じたビジネス機会を創出する。
	<b>循環型社会の実現 Circular Economy</b>	自社および顧客のサーキュラーエコノミー型ビジネスモデル構築によりビジネス機会を創出する。
経営基盤の強化	<b>責任あるビジネスプロセスの構築 Responsible Business Process</b>	サプライチェーン全体を俯瞰してビジネスプロセスの ESG リスク最小化を図り、ステークホルダーの信頼を獲得する。
	<b>オープンイノベーションの強化 Open Innovation</b>	社会課題解決型の事業を迅速に生み出すために、自前主義を脱却し新たな価値創出プロセスへの転換を図る。
	<b>多様な人材の活躍 Diverse and Inclusive Workforce</b>	多様な人材がポテンシャルを発揮できる企業文化を育み、変化に強い社員・会社へと変革する。

# PFU ESG 目標

2024 年度は、マテリアリティ「“はたらく”の変革」「脱炭素社会の実現」「循環型社会の実現」「責任あるビジネスプロセスの構築」「多様な人材の活躍」に係る ESG 目標の達成に取り組みました。

マテリアリティ	ESG 指標	2023 年度 実績	2024 年度 実績	2025 年度 目標				
事業を通じた社会課題解決	<b>“はたらく” の変革</b> 高い付加価値でお客様の業務効率化に貢献するハイ エンドスキャナーの販売台数 (fi シリーズ：グローバル販売台数)  		369,824 台	327,204 台	360,000 台			
	<b>脱炭素社会 の実現</b>	GHG 排出量 Scope1,2 削減率 (2015 年度比)  		5,126t-CO <sub>2</sub> (41.4%減)	2,059t-CO <sub>2</sub> (76.5%減)	2,076t-CO <sub>2</sub> (76.3%減)		
		GHG 排出量 Scope3 削減 率  	国際エネルギースター プログラム適合	スキャナー製品	適合 100% (3 製品)	適合 100% (1 機種)	100%	
			米国 EPEAT 取得 対応	スキャナー製品	適合 100% (3 製品)	適合 100% (1 機種)	100%	
			製品環境性能指数	組込みコンピューティング製品		4.01	3.82	—
				情報 KIOSK 端末		14.36	11.276	10.46 以下
				ネットワークアライアンス製 品		0.537	0.555	0.611 以下
				セキュリティ製品		0.256	0.254	0.252 以下
			製品導入による 顧客先環境貢献量	組込みコンピューティング製品		9,465t-CO <sub>2</sub>	10,598t-CO <sub>2</sub>	—
		情報 KIOSK 端末			1,732t-CO <sub>2</sub>	1,367t-CO <sub>2</sub>	762t-CO <sub>2</sub>	
		ネットワークアライアンス製品			339.6t-CO <sub>2</sub>	340.8t-CO <sub>2</sub>	294.1t-CO <sub>2</sub>	
		セキュリティ製品			660.3t-CO <sub>2</sub>	652.71t-CO <sub>2</sub>	633.0t-CO <sub>2</sub>	
		環境配慮ソリューション による顧客先環境貢 献	ドキュメント		1295.1t-CO <sub>2</sub>	1,093.6t-CO <sub>2</sub>	677.6t-CO <sub>2</sub>	
			ソリューション		5,977t-CO <sub>2</sub>	6,108.1t-CO <sub>2</sub>	4,126t-CO <sub>2</sub>	
		<b>循環型社会 の実現</b>	製品の新規資源 使用率 	新規資源使用率	スキャナー製品	95.6%	95.3%	93.9%
化石資源由来バージ ンプラスチックの包装材 削減率 (2020 年度比)	スキャナー/キーボード製品			22.5%減	31.0%減	14.5%減		
経営基盤の強化	<b>責任ある ビジネスプロセ スの構築</b>	CHRB スコア ICT セクター評価	RBA-SAQ スコア  	89.6%	91.9%	85%		
	<b>多様な人材 の活躍</b>	エンゲージメントスコア  		3.57	3.67	3.74		
		女性管理職比率  		8.4%	8.6%	8.5%		

## カーボンニュートラル

リコグループ環境目標に基づいて、2050 年度に GHG 排出ネットゼロを目指します。2040 年目標は、Scope1,2 において GHG 実質排出ゼロ、事業活動で使用する電力の再生可能エネルギー比率 100%としています。

### ■ Scope1、Scope2 の取組み

継続した省エネを推進しながら、再生可能エネルギーの導入も進めます。

PFU では、地球の気温上昇を 1.5℃未満に抑える水準と整合した削減目標を 2030 年度目標に掲げています。

### ■ Scope3 の取組み

調達・輸送・使用など事業活動の上流から下流までを含めたサプライチェーン全体での CO<sub>2</sub> 排出量削減が求められています。

PFU では、排出比率の大きい「購入した製品・サービス（カテゴリ-1）」、「輸送、配送（上流）（カテゴリ-4）」、「販売した製品の使用（カテゴリ-11）」の 3 つのカテゴリに注目した削減目標を 2030 年度目標に掲げています。

### ■ 再生可能エネルギー普及拡大への取組み

PFU では、RE100(注 1)に参加しているリコグループの一員として社会全体の再生可能エネルギーの普及拡大に貢献しています。2024 年度の再生可能エネルギー由来の電力量は 7,524MWh です。

2024 年 4 月より本社及び ProDeS センターでは、リコジャパン株式会社から供給する再生可能エネルギー 100%の電力を使用しています。

(注 1)RE100 は、The Climate Group が CDP とのパートナーシップのもとで主催しています。日本では 2017 年 4 月より日本気候リーダーズ・パートナーシップ (JCLP) が地域パートナーとして、日本企業の参加を支援しています。



再エネ電力供給証明書

### リコグループ脱炭素目標

	2030 年度目標	2040 年度目標	2050 年度
Scope1、Scope2	2015 年度比 63%削減	GHG 実質排出ゼロ	GHG 排出ネットゼロ
Scope3	2015 年度比 40%削減 (調達・輸送・使用カテゴリ)	2015 年度比 65%削減 (全カテゴリ)	
再生可能エネルギー比率	50%	100%	——

### ■ ゼロカーボンシティかほく推進パートナー登録

かほく市が推進するゼロカーボンシティかほくの実現に向けた取り組みに参加し、2024 年 2 月 25 日に「ゼロカーボンシティかほく推進パートナー」に登録されました。本登録制度は、かほく市と連携しながら、脱炭素社会の実現を目指す事業者をパートナーとして認定するものです。

今後も、地域との共創により環境負荷低減と持続可能な社会の実現に取り組んでまいります。



推進パートナー登録証

# PFU 環境行動計画

PFU ESG 目標(2023 年度～2025 年度)のうち、マテリアリティ「はたらくの変革」「脱炭素社会の実現」「循環型社会の実現」に関するテーマを環境目標として展開し取り組みました。

マテリアリティ	環境目標	2023 年度 実績	2024 年度 実績	2025 年度 目標		
事業を通じた社会課題解決	<b>“はたらく” の変革</b> 高い付加価値でお客様の業務効率化に貢献するハイエンドスキャナーの販売台数 (fi シリーズ：グローバル販売台数)  	369,824 台	327,204 台	360,000 台		
	GHG 排出量 Scope1,2 削減率 (2015 年度比)  	5,126t-CO <sub>2</sub> (41.4%減)	2,059t-CO <sub>2</sub> (76.5%減)	2,076t-CO <sub>2</sub> (76.3%減)		
	<b>脱炭素社会 の実現</b>	GHG 排出量 Scope3 削減率  	国際エネルギースター プログラム適合 スキャナー製品	適合 100% (3 製品)	適合 100% (1 機種)	適合 100%
			米国 EPEAT 取得対 応 スキャナー製品	適合 100% (3 製品)	適合 100% (1 機種)	適合 100%
		製品環境性能指数	組込みコンピューティング製 品	4.01	3.82	—
			情報 KIOSK 端末	14.36	11.276	10.46 以下
			ネットワークアライアンス製 品	0.537	0.555	0.546 以下
			セキュリティ製品	0.256	0.254	0.252 以下
		製品導入による 顧客先環境貢献量	組込みコンピューティング製 品	9,465t-CO <sub>2</sub>	10,598t-CO <sub>2</sub>	—
			情報 KIOSK 端末	1,732t-CO <sub>2</sub>	1,367t-CO <sub>2</sub>	762t-CO <sub>2</sub>
			ネットワークアライアンス製品	339.6t-CO <sub>2</sub>	340.8t-CO <sub>2</sub>	190t-CO <sub>2</sub>
			セキュリティ製品	660.3t-CO <sub>2</sub>	652.71t-CO <sub>2</sub>	633.0t-CO <sub>2</sub>
	環境配慮ソリューション による顧客先環境貢献	ドキュメント	1295.1t-CO <sub>2</sub>	1093.6t-CO <sub>2</sub>	839.3t-CO <sub>2</sub>	
		ソリューション	5,977t-CO <sub>2</sub>	6,108.1t-CO <sub>2</sub>	4,126t-CO <sub>2</sub>	
	<b>循環型社会 の実現</b>	製品の新規資 源使用率 	新規資源使用率 スキャナー製品	95.6%	95.3%	93.9%
化石資源由来バージン プラスチックの包装材削 減率(2020 年度比)		スキャナー/キーボード製 品	22.5%	31.0%	14.5%	

## 2024 年度活動結果

2024 年度は、3 か年計画の 2 年目として 18 の環境目標に取り組み 15 項目で目標を達成しました。

○：目標達成 ×：目標未達成

マテリアリティ	環境目標	2024 年度 計画	2024 年度 実績	評価			
事業を通じた社会課題解決	<b>“はたらく” の変革</b> 高い付加価値でお客様の業務効率化に貢献する ハイエンドスキャナーの販売台数 (fi シリーズ：グローバル販売台数) 		390,000 台以上	327,204 台	×		
		GHG 排出量 Scope1,2 削減率 	GHG 排出量削減(2015 年度比)	5,332t-CO <sub>2</sub> 以下 (39.0%減)	2,059t-CO <sub>2</sub> (76.5%減)	○	
		品質向上、業務効率化	各部門 1 項目以上 (対象 19 部門)	各部門 1 項目以上 (対象 19 部門 すべてで目標達成)	○		
	<b>脱炭素社会の 実現</b> 	GHG 排出量 Scope3 削減率	国際エネルギースター プログラム適合	スキャナー製品	適合 100% (1 製品)	適合 100% (1 製品)	○
			米国 EPEAT 取得対応	スキャナー製品	適合 100% (1 製品)	適合 100% (1 製品)	○
		製品環境性能指数の 向上	組込みコンピューティング 製品	4.30 以下	3.82	○	
			情報 KIOSK 端末	11.263 以下	11.276	×	
			ネットワークアライアンス 製品	0.557 以下	0.555	○	
			セキュリティ製品	0.256 以下	0.254	○	
		製品導入による 顧客先環境貢献量の 向上	組込みコンピューティング 製品	8,155t-CO <sub>2</sub> 以上	10,598t-CO <sub>2</sub>	○	
			情報 KIOSK 端末	1,332t-CO <sub>2</sub> 以上	1,367t-CO <sub>2</sub>	○	
			ネットワークアライアンス 製品	301.8t-CO <sub>2</sub> 以上	340.8t-CO <sub>2</sub>	○	
			セキュリティ製品	645.0t-CO <sub>2</sub> 以上	652.71t-CO <sub>2</sub>	○	
		環境配慮ソリューション による顧客先環境貢献 の向上	ドキュメント	762.3t-CO <sub>2</sub> 以上	1,093.6t-CO <sub>2</sub>	○	
			ソリューション	4,023 t-CO <sub>2</sub> 以上	6108.1t-CO <sub>2</sub>	○	
		環境配慮ソリューション、サービスの推進	各部門 1 項目以上 (対象 6 部門)	各部門 1 項目以上 (6 部門にて 目標達成)	○		
	<b>循環型社会 の実現</b> 	製品の新規資源 使用率	新規資源使用率	スキャナー製品	95.2%以下	95.3%	×
			化石資源由来バージン プラスチックの包装材削 減率(2020 年度比)	スキャナー製品/キーボ ード製品	9.5%以上	31.0%	○

## お客様の業務効率化に貢献するハイエンドスキャナーの販売

人とデジタルの力で、誰にでも働きやすい環境を作り、お客様の生産性向上・価値創造に貢献することを目指し、高い付加価値でお客様の業務効率化に貢献するハイエンドスキャナーの販売に取り組みました。

ハイエンドスキャナーの販売台数 (fi シリーズ：グローバル販売台数)	2024 年度目標	2024 年度実績
		390,000 台以上

## GHG 排出量削減

脱炭素社会の実現に向けて、エネルギー消費量(注 2)を削減する省エネ活動に取り組んでいます。2024 年度は、空調設備の更新、再生可能エネルギーの活用拡大などに取り組みました。

(注 2)Scope1：ガソリン・軽油(社有車、構内利用)、液化石油ガス(食堂厨房)、都市ガス(冷暖房)、灯油(暖房)  
Scope2：購入電力、熱(横浜本社の地域冷暖房)

エネルギー消費量 (CO2 換算値：t-CO2)	2024 年度目標	2024 年度実績
		5,332t-CO <sub>2</sub> 以下

### ■ 空調停止時刻の変更や空調用チラー冷凍機の更新による省エネ

本社では、環境保全および省エネルギー推進のため、2024 年度では以下の施策を実施しました。

まず、空調設備の運転停止時刻を従来から 1～2 時間前倒し、17:30 に統一しました。これにより、就業時間以降の電力使用量が削減され、約 43,000kWh の省エネ効果となりました。

また、老朽化した空調用チラー冷凍機を 2024 年 12 月に更新し、加熱特性に優れた冷媒 R32 の使用による高い運転効率を実現しました。

2024 年度としては約 22,000kWh の省エネ効果がありました。年間換算では約 80,000kWh の省エネ効果を見込んでいます。加えて、遠隔監視装置の導入により空調設備の状況把握や点検の効率化にもつながっています。

事業所	本社
改善時期	2024 年 4 月
CO <sub>2</sub> 削減量	33.32 t-CO <sub>2</sub>



本社 B 棟チラー

### ■ 再生可能エネルギーの活用

社会全体の再生可能エネルギーの普及拡大に貢献するとともに、自らの CO<sub>2</sub> 排出量を実質ゼロにする目標を達成するため、再生可能エネルギーの導入を進めています。

2024 年度 再生可能エネルギー使用量	
本社、 ProDeS センター	6,708MWh (リコージャパン株式会社が供給する再生可能エネルギー100%の電力を使用)
横浜本社	816MWh (ビル供給電力にて「RE100 TECHNICAL CRITERIA」要件を満たすプランを利用)

## 品質向上、業務効率化

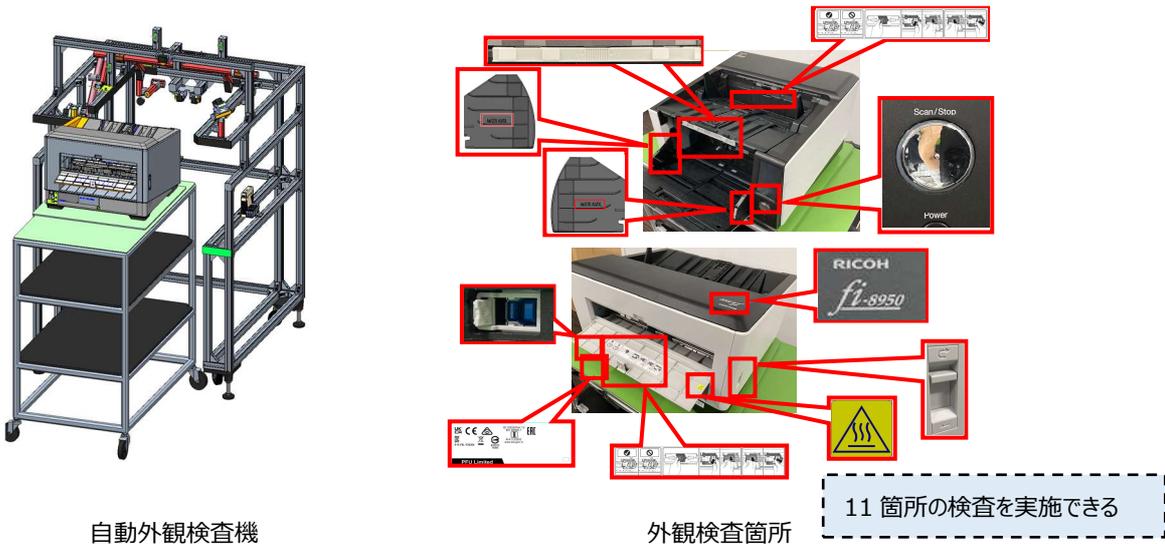
社内業務においても、IT を活用した業務効率化や品質向上による環境負荷低減を推進し、本業に傾注する環境活動を推進しています。2024 年度は、全部門で本業における品質向上・業務効率化を推進しました。

### 2024 年度の改善事例

#### ■ スキャナー自動外観検査システム開発による工数削減

スキャナーの組立工程において、各工程に点在していた目視検査（シルク印字、レバー位置、ラベルの有無・貼付方向の正誤等）を自動化しました。従来は、作業者が各工程で目視による検査を行っていましたが、外観検査機（ハンズフリー型）を開発・導入することにより、検査の工数削減を実現しました。

自動外観検査システムでは、装置を作業台に載せたまま外観検査機にセットし、カメラ 10 個を使用して最大 11 箇所の目視検査箇所を、画像処理ソフトによるパターンマッチングでまとめて検査することができます。作業時間が 1/3 に短縮されると共に、作業ミスやレバー位置設定忘れなどを未然防止することができます。



自動外観検査機

外観検査箇所

11 箇所の検査を実施できる

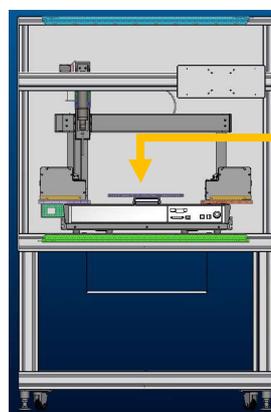
#### ■ 汎用ネジ締めロボット開発による工数削減

混流ラインの組立工程において、ネジ締め作業を自動化しました。従来は、作業者が手作業でネジ締め作業を行っていましたが、ネジ締めロボットを開発・導入することにより、作業の工数削減を実現しました。

混流ラインは、大小いろいろな製品を製造します。製品に合わせた治具(置台)を入れ替えることで、ロボット 1 台でいろいろな製品をネジ締めできます。今後は、対象製品を順次拡大していき、1 か月あたり 50 時間の工数削減を見込んでいます。



ネジ締めロボット(外観)



ネジ締めロボット(正面図)



製品に合わせた治具を入れ替えることで、いろいろな製品をネジ締めできる

## 環境配慮型製品・ソリューション・サービス

当社は、「省エネルギー」、「3R 設計(注 3)」、「含有化学物質」などに対応した「環境配慮型製品」を開発し、製品のライフサイクル全体での環境負荷低減を目指しています。2024 年度は、環境性能の優れた製品をより多く提供することでお客様先での環境負荷低減に貢献するため、すべての事業部門において製品の環境性能向上を環境目標に設定して活動に取り組み、環境に配慮した製品開発・提供を推進しました。

また、「業務効率化」「物の消費の削減」「物の移動の削減」「スペースの有効活用」により、お客様業務における省エネ、ペーパーレスなどの環境負荷低減に貢献する環境配慮ソリューション、サービスを提供しています。2024 年度は、各種ソリューション、サービスの開発・出荷やスキャナーを活用したソリューション、サービスの提供拡大など、お客様の業務における環境負荷低減に寄与する活動を推進しました。

### 2024 年度の主な成果

GHG 排出量 Scope3 の 削減	国際エネルギースター プログラム適合  米国 EPEAT 取得対応	スキャナー 製品	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際エネルギースタープログラムを、新規開発機種で計画通り 1 製品 適合しました。</li> <li>米国政府系機関を中心にグリーン購入促進制度で採用されている 電子製品環境評価システム EPEAT(Electronic Product Environmental Assessment Tool) を、北米展開予定の新機種について計画通り 1 製品、取得しました。</li> </ul>
	製品環境性能指数の向上  製品導入による 顧客先環境貢献量の向上	組込コンピューティング 製品	独自に定義した環境性能指数を改善することで、製品使用による環境貢献に取り組みました。 また、製品導入によるお客様先での環境負荷低減に取り組みました。
		情報 KIOSK 端末	独自に定義した環境性能指数を改善することで、製品使用による環境貢献に取り組みました。 また、製品導入によるお客様先での環境負荷低減に取り組みました。
		ネットワークアライアンス 製品	独自に定義した環境性能指数を改善することで、製品使用による環境貢献に取り組みました。 また、製品導入によるお客様先での環境負荷低減に取り組みました。
		セキュリティ 製品	独自に定義した環境性能指数を改善することで、製品使用による環境貢献に取り組みました。 また、製品導入によるお客様先での環境負荷低減に取り組みました。
		ドキュメント/ ソリューション	環境配慮ソリューション導入によるお客様先での環境負荷低減に取り組みました。

(注 3)3R 設計 : Reduce(発生抑制)・Reuse(再使用)・Recycle(再資源化)を考慮した設計

### 主な環境配慮型製品

省エネルギー、3 R 設計によりグリーン購入法に適合し、さらに各種環境規格に適合した製品を提供してお客様の業務における環境負荷軽減に貢献します。

スキャナー製品の環境規格適合状況は、当社の公開 HP で公開しています。

業務用スキャナー fi シリーズ

<https://www.pfu.ricoh.com/fi/eco/index.html>

ScanSnap

<https://www.pfu.ricoh.com/scansnap/eco/>



fi-8950/fi-8930/fi-8820

## 主な環境配慮ソリューション、サービス

	活動内容	製品
環境に配慮したソリューション、サービスを提供拡大し、顧客先業務における環境負荷低減に寄与	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境配慮ソリューションの開発、出荷</li> <li>・スキャナーを活用したソリューション・サービスの提供拡大</li> <li>・仮想化、クラウド商談推進、など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DynaEye 11</li> <li>・BIP Smart</li> <li>・PaperStream Capture</li> <li>・Caora</li> </ul>

### ■ 高精度なリチウムイオン電池検知システムの開発

近年、リチウムイオン電池が使用された小型製品等が増加していますが、これらが不燃ごみや容器包装プラスチック等のごみ回収区分に混入して、収集運搬中の車両内やごみ処理施設・リサイクル工場等で発煙・発火し、大規模火災に繋がる事例が報告されています。

この課題を解決するため、リチウムイオン電池検知システムの実用化に向けてパートナー企業と共同開発を行っております。本システムでは、X線検査センサーと廃棄物分別特化 AI エンジン「Raptor VISION BATTERY」を活用した検知システムであり、“袋の状態のまま”で、内部に混入したリチウムイオン電池を検知することができます。



#### (システム概要)

ベルトコンベア上に流れてくるごみを X 線装置で透過し、その画像をリチウムイオン電池検知特化 AI 認識エンジンで対象物を検知する。検知後は、作業者的の方にプロジェクションマッピングにて対処物の位置を照射して、場所を通知する仕組みです。

**Raptor VISION**  
BATTERY

今般、本システムを国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（以下、NEDO と記載）が公募しているコンテスト「NEDO Challenge, Li-ion Battery 2025／発火を防ぎ、都市鉱山を目指せ！」のリチウムイオン電池の検出装置（ポータブル型・設置型）部門において、高い認識精度が認められ、1 位を獲得いたしました。

（プラごみ：検知率 100%、誤検知率 0% 不燃ごみ：検知率 90%、誤検知率 2%）

今後、製品化に向けて更なる改良を重ね、グローバル課題となっているリチウムイオン電池が原因の火災問題を解決するだけでなく、分別して抽出し資源としての利活用を可能にすることで、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでまいります。

## 新規資源の取り組み

PFU では、新規資源使用量の削減に向け、製品への再生材料の使用拡大や包装材における化石資源由来バージンプラスチックの削減に取り組み、環境負荷の削減を進めています。

### ■ 製品の新規資源使用率の削減

再生プラスチックの活用によりプラスチック廃棄物の削減を進めています。再生材の使用に際しては、耐久性が低下しないように、また色味のばらつきを考慮して使用箇所を工夫しています。

RICOH fi-8190/fi-8170 では、再生プラスチックの使用をすすめ、本体樹脂総重量の 13.8%(重量比)に使用し、新規資源使用率の削減に貢献しております。

スキャナー製品全体では、新規資源使用率は 95.3%となっております。



### 2024 年度の主な成果

新規資源使用率の削減	2024 年度目標	2024 年度実績
	95.2% 以下	95.3%

### ■ 化石資源由来バージンプラスチックの包装材削減率の向上

製品輸送時に使う緩衝材は、これまで化石資源由来の発泡スチロールを使用していましたが、スキャナー製品では、これをリサイクル可能な紙製包装材に切り替える取り組みを行っています。

化石資源由来の発泡スチロールを一部機種より段ボール材に転換することで、化石資源由来バージンプラスチックの包装材の使用量を 31.0%削減（2020 年度比）しています。

### 2024 年度の主な成果

化石資源由来バージンプラスチックの包装材削減率の向上 (2020 年度比)	2024 年度目標	2024 年度実績
	9.5%以上減	31.0%減

社員への環境啓発を目的とした環境情報の共有を進めるとともに、地域への環境・社会貢献活動に取り組んでいます。また、事業所周辺地域や自治体との協定締結・連携のもと、生物多様性の保全や地域美化活動など、豊かな自然を守る活動を推進しています。

2024 年度は、能登半島の豪雨災害で被害を受けた輪島市での土砂掻き出しのボランティア、事業所周辺での清掃活動を実施しました。さらに、地域の方々を対象としたイベントの開催や PFU ブルーキャッツ石川かほくによる地域・社会貢献活動にも取り組んでいます。

項	活動内容	実施	実施事業所/地区
1	地域・環境保全等のための寄付	2024 年 4 月、5 月、9 月、12 月	石川地区
2	河北潟清掃活動	2024 年 6 月、10 月	石川地区
3	かほく市海浜一斉清掃	2024 年 7 月	石川地区
4	能登半島の豪雨災害ボランティア活動	2024 年 10 月～12 月	石川地区
5	ナンテンの苗木植樹	2024 年 12 月	石川地区
6	スポーツを通じた地域貢献活動(PFU ブルーキャッツ石川かほく)	通年	石川地区
7	社員食堂の地産食材使用	通年	石川地区
8	ペットボトルキャップ回収活動	通年	全国各拠点
9	事業所周辺の清掃活動	通年	全国各拠点

### 清掃、ボランティア活動

#### ■ 河北潟干拓地のボランティア活動

河北潟干拓地の景観や農業用施設機能の維持を目的とした除草や美化活動などのボランティア活動への参加に関する協定書を、河北潟干拓土地改良区及び河北潟沿岸土地改良区と民間企業第一号として 2007 年 3 月に締結しています。協定書に基づき、2024 年度は 6 月、10 月に河北潟干拓地の清掃活動に参加しました。



#### ■ かほく市海浜一斉清掃

石川地区では、2024 年 7 月にかほく市が主催する海浜一斉清掃に参加しました。テトラポットの隙間に溜まったペットボトル・発泡スチロール・空き缶などを、参加者の方と一緒にバケツリレーのスタイルで回収するなど、多くの漂着物を回収しました。



#### ■ 事業所周辺の環境美化活動

石川地区では、6 月に本社、ProDeS センターの通勤路清掃を実施し、通勤路と駐車場周辺に捨てられていたペットボトル、空き缶、たばこの吸い殻、その他金属/プラスチックごみなどを拾い、地域の美化に貢献しました。

横浜本社では CSR 活動および環境活動の一環として、横浜みなとみらいグランモール清掃活動に参加しました。2024 年度は横浜本社周辺道路の美化・清掃を計 9 回実施しました。PFU IT サービス株式会社では、宮城県、香川県、福井県、佐賀県、神奈川県の出発点で事業所周辺の清掃活動に参加しました。引き続き、地域イベントに積極的に参加し、環境活動に貢献していきます。



福井まちなか一斉ごみ拾い  
(福井市)



通勤路清掃  
(石川本社)

### ■ 能登半島の豪雨災害ボランティア活動の実施

2024年9月に発生した石川県能登半島の豪雨災害へのボランティア活動に参加しました（2024年10月～12月）。延べ74名の社員により輪島市内の被災住宅での瓦礫の除去や、土砂の掻き出しなどを中心とした支援活動を実施しました。



## イベント開催

### ■ PFU ものづくりラボ・キャンプ 2024 開催

2024年7月27日（土）と8月4日（日）、PFU本社にて「PFU ものづくりラボ・キャンプ 2024」を開催しました。

2007年から地元かほく市の子供たちを対象に開催しているイベントで、今年で18回目となります。

かほく市教育委員会のかほく市生涯学習講座「親子体験コース」と連携し、かほく市内および社員家族を含めた小学4～6年生を対象に実施しています。

2024年度は親子30組を募集し、2日間の日程で「石川県小学生プログラミングコンテスト」に繋がるテーマの電子工作を行いました。



### ■ PFU 未来キッズプロジェクト～いしかわ・宇宙の学校

2010年から、かほく郡市、金沢市の教職員&社員共同で宇宙と自然科学をテーマに活動しています。

2024年度は3回/年のスクーリングにて約300名の参加者が実験・工作に取り組みました。



## 地域・環境保全等のための寄付

### ■ 緑の募金寄付、ナンテンの苗木植樹

毎年「緑の募金」に寄付しており、寄付のお礼としていただく苗木を本社敷地内に植樹しています。この緑の募金では、植樹や間伐など国内の森林整備のほか、震災で被災した方々への支援、未来の担い手である子どもたちへの森林環境教育、また海外の緑化支援等にも使われています。



### ■ PFU クリスマス・チャリティコンサート

1992年から開催しているコンサートです。2024年度も石川県立音楽堂コンサートホールにて開催し、約1,400名の方にご来場いただきました。

本コンサートの収益は、石川県を通じて「令和6年能登半島地震災害義援金」および「令和6年能登豪雨災害義援金」として全額寄付しました。



## PFU ブルーキャッツ石川かほくの取り組み

### ■ 小学校でのスポーツ教室・職業講話の実施

PFU ブルーキャッツ石川かほくでは、かほく市をはじめ、石川県の各地域の小学校で、総合学習やキャリア教育の一環として「スポーツ教室」を実施しています。この活動では、選手やOGが児童と一緒にバレーボールを楽しむ授業を行うとともに、スポーツ選手としての経験をもとに、子どもたちが将来の夢について考えたり、自分の可能性を広げたりするきっかけとなる職業講話を行っています。



### ■ 「KAHOKU BLUE」地域と未来をつなぐスパークリングワインプロジェクトの実施

PFU ブルーキャッツ石川かほくは、地域との連携による新たな挑戦として、かほく市の特産である「高松ぶどう」を活用したスパークリングワイン「KAHOKU BLUE」を開発しました。「KAHOKU BLUE」は、ぶどう栽培で生じる摘房（間引き）作業で廃棄されていたぶどうを活用し、地元農家と協力した商品づくりを通じて、地域資源の循環や特産品や地域の魅力の発信に貢献しています。また「KAHOKU BLUE」の収益の一部は、令和6年能登半島地震・豪雨被災地への復興支援金として寄付しています。



## 情報開示

公開ホームページやイベントなどを通じて、「環境配慮型製品情報」や「環境活動」を発信・紹介しています。当社は、サステナビリティ情報を Web サイトで開示しています。

### サステナビリティホームページ

PFU 公開サイトの中に「サステナビリティ」ページを設けて「サステナブル経営」、「E 環境」、「S 社会」、「G ガバナンス」に関する考え方や取り組み、これからの方向性を掲載して「社会課題の解決」や「持続可能な社会形成」に貢献できる企業を目指した活動を展開しています。

社内向け情報発信の環境も整えて、PFU グループで働く方の SDGs 意識の高揚を図っています。



サステナビリティホームページ

### 環境報告書

1994 年より環境年次報告として「環境報告書」を発行（英語版は 2003 年～）し、当社公開ホームページで情報開示しています。また、公開ホームページでは最新の環境配慮型製品の情報も開示しています。



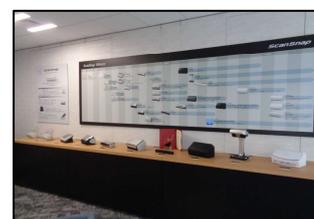
環境報告書

### ショールーム

国内の主要事業所ではショールームを設置しており、環境配慮型製品であるスキャナーや、環境配慮ソリューションなどを展示しています。



本社

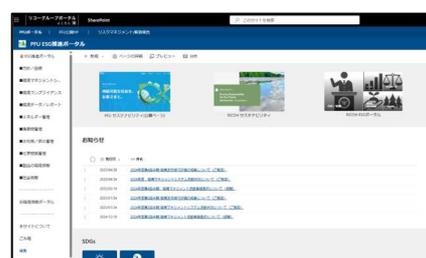


横浜本社

### 環境情報の社内共有

社内イントラの環境情報ページにて、以下の環境に関する情報を共有し、継続的に環境の改善に取り組んでいます。

- ・環境方針、活動計画、実施状況
- ・保有設備、使用化学物質
- ・環境法規制情報／順守状況
- ・環境パフォーマンスデータ  
(電力、熱、ガソリン、軽油、灯油、ガス、水、廃棄物)
- ・環境に関するニュース、トピックス 他



社内向け環境情報ポータルサイト

### 社外からの要望、問合せ

お客様、行政、業界団体など多方面から当社へ寄せられた環境に関連するアンケートや調査依頼等の要望や問合せに対して、2024 年度は 199 件の対応を実施しました。環境クレームはありませんでした。

	ご要望、問合せ	受付件数
1	製品・サービスに関する依頼（例：REACH/RoHS 調査依頼、顧客指定化学物質調査 等）	119 件
2	製品以外の依頼（例：お客様、行政、業界団体等からの環境に関するデータ提供 等）	80 件
	合計	199 件

## 環境パフォーマンスデータ

事業所とその周辺の環境保全と法令遵守の観点から、設備の維持管理、化学物質の適正管理を行い、汚染防止を図っています。

また、事業に伴い排出／使用される温室効果ガス、廃棄物、水資源などの実績量を把握し、当社事業所における環境負荷状況の監視を定期的に行っています。

### エネルギー使用量

#### ■ 温室効果ガス(GHG)総排出量 (Scope1、Scope2)

二酸化炭素に換算した当社事業所の温室効果ガス総排出量は以下の通りです。



上記の温室効果ガス総排出量は、WRI/WBCSD GHG プロトコルの Scope1 と Scope2 の合計(t-CO<sub>2</sub>)

【換算係数】 購入電力: 省エネ法報告値の電力会社毎の換算係数を使用

液化石油ガス: 6.527t-CO<sub>2</sub>/千m<sup>3</sup>、都市ガス: 2.23t-CO<sub>2</sub>/千m<sup>3</sup>、熱: 0.057t-CO<sub>2</sub>/GJ

ガソリン: 2.29t-CO<sub>2</sub>/kL、軽油: 2.62t-CO<sub>2</sub>/kL、灯油: 2.5t-CO<sub>2</sub>/kL

	2022 年度	2023 年度	2024 年度
Scope1 + Scope2(tCO <sub>2</sub> )	6,045	5,126	2,059
原単位(t-CO <sub>2</sub> /就業日数)	25.08	21.63	8.62

#### ■ 電力使用量

当社事業所の電力量は以下の通りです。

	単位	2015 年度 基準年	2022 年度	2023 年度	2024 年度
総電力量	MWh	13,636	11,663	11,119	10,441
再生可能エネルギー由来の電力	MWh	0	690	2,211	7,524
再生可能エネルギー比率	%	0.0	5.9	19.9	72.1

## ■ 温室効果ガス(GHG)総排出量 (Scope3)

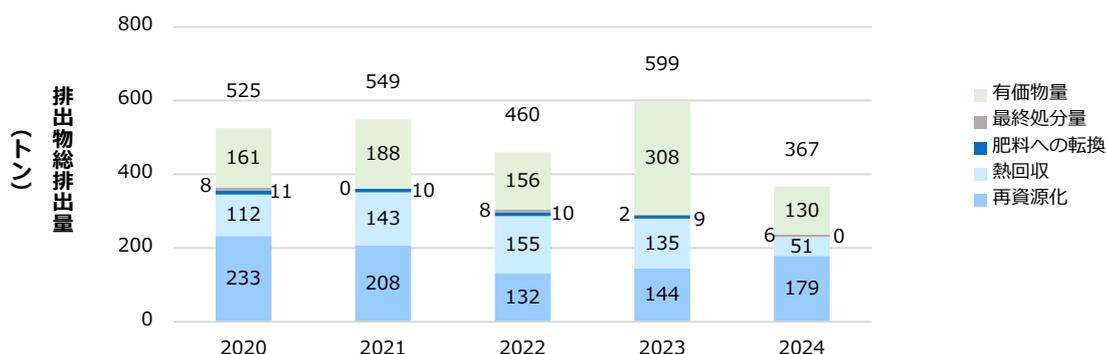
二酸化炭素に換算した温室効果ガス総排出量は以下の通りです。カテゴリ11の算定方法について、スキャナー製品はエコリーフ環境ラベルの申請情報を使用した算定方法へ2024年度から変更しました。

カテゴリ	カテゴリ名	排出量[t-CO <sub>2</sub> ]				2024年度 Scope3全体に占める割合[%]
		2015年度 基準年	2022年度	2023年度	2024年度	
カテゴリ1	購入した製品・サービス	97,559.0	56,565.0	42,202.0	39,047.1	52.4
カテゴリ2	資本財	4,580.3	4,127.3	12,889.9	3,174.9	4.3
カテゴリ3	Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	5,331.4	4,335.5	4,210.2	4,271.2	5.7
カテゴリ4	輸送、配送（上流）	611.7	491.0	467.0	455.6	0.6
カテゴリ5	事業から出る廃棄物	62.1	44.0	41.3	88.4	0.1
カテゴリ6	出張	991.5	703.8	893.2	899.5	1.2
カテゴリ7	雇用者の通勤	3,997.2	2,453.2	2,653.7	702.0	0.9
カテゴリ8	リース資産（上流）	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外
カテゴリ9	輸送、配送（下流）	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外
カテゴリ10	販売した製品の加工	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外
カテゴリ11	販売した製品の使用	9,992.0	7,075.0	6,480.0	25,899.8	34.7
カテゴリ12	販売した製品の廃棄	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外
カテゴリ13	リース資産（下流）	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外
カテゴリ14	フランチャイズ	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外
カテゴリ15	投資	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外
合計		123,125.2	70,799.5	75,794.8	74,538.6	100.0

## 廃棄物等総発生量

当社事業所の廃棄物総発生量は以下の通りです。事務所系、工場系のすべての事業所において、熱回収、再資源化などによる有効活用を推進しています。

廃棄物発生量は、2012年度から2014年度の平均555トンの5%以上削減した量527トン以下に抑制することを目標として取り組みました。2024年度実績は236トン(57%減)となり目標を達成しました。



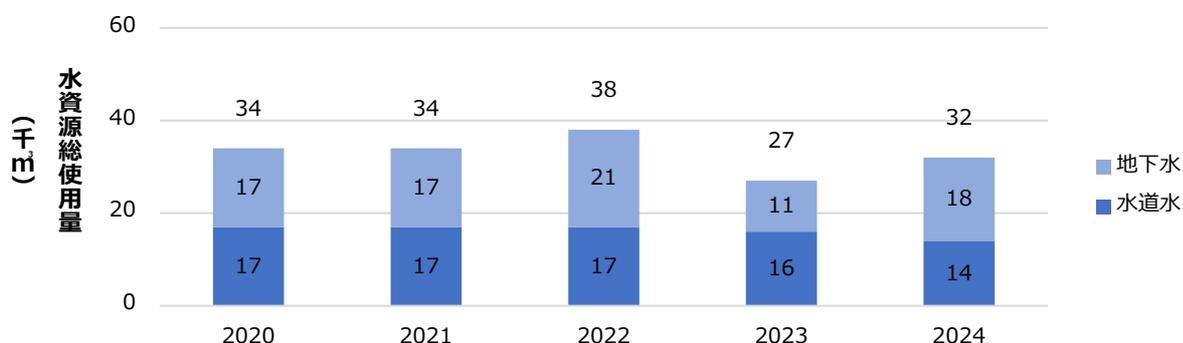
(トン)

排出物	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
最終処分量	8	0	8	2	6
肥料への転換	11	10	10	9	0
熱回収	112	143	155	135	51
再資源化	233	208	132	144	179
廃棄物発生量	364	361	304	291	236
有価物量	161	188	156	308	130
総排出量（廃棄物発生量 + 有価物量）	525	549	460	599	367

## 水資源総使用量・総排水量

当社事業所の水資源総使用量・総排水量は以下の通りです。

### ■ 水資源総使用量

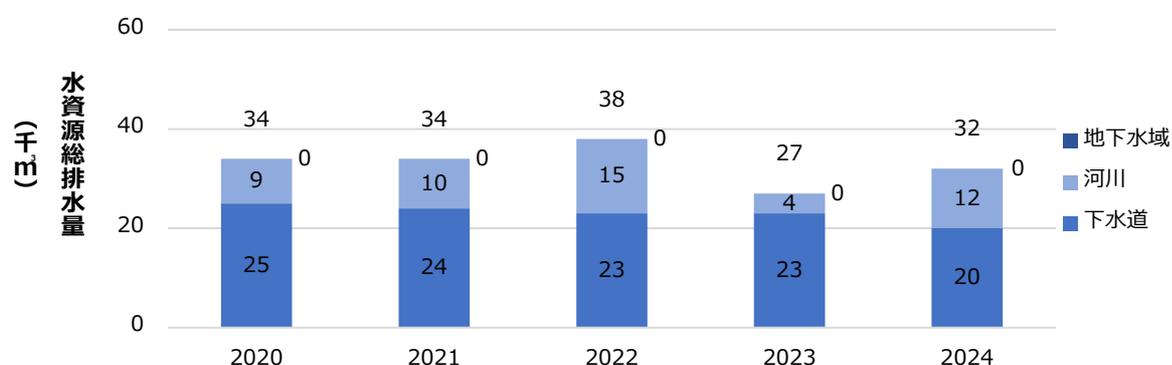


水資源の用途は、全事業所における生活用水と冬季の館内加湿(水道水)及び、本社における夏季の植栽散水(地下水)、本社と ProDeS センターにおける融雪(地下水)です。当社事業所では水資源を生活用水として使用しています(工業用水には使用していません)。

水資源総使用量は、2018 年を基準年として 1%以上削減した量 35.6 千m³以下とすることを目標として取り組みました。2024 年度は、実績は 32 千m³(10%減)で目標達成となりました。前年度より降雪量が多く、地下水(融雪)使用量は増加しました。

水資源は生活用水として使用しており、再使用やリサイクルに使用している水資源はありません。

### ■ 水資源総排水量



排出した水資源の内訳は、生活排水(下水道)、融雪用の地下水利用(河川)、植栽等の散水(地下水域)です。事業所から排水する水質を確保するために自主管理値を設定し、継続的に水質の監視・測定を行っています。

2024 年度は、融雪のための地下水使用量が増加し、河川への排水量が増加しました。

## 化学物質取扱実績

設計・開発、評価、製造、保守、構内清掃などに使用する化学物質について、その量に関わらず年間取扱量を集計しています。

### ■ PRTR 法対象化学物質

2024 年度の PRTR 法対象化学物質取扱量は以下の通りであり、都道府県等へ届出が必要な年間取扱量に達した化学物質はありませんでした(注 4)。

取扱量は、2012～2014 年度の平均 0.132 トン以下に抑制することを目標として取り組みました。

2024 年度実績は、不要な半田（鉛化合物）の廃棄をすすめたことなどにより、0.165 トン(25.0%増)となりました。

#### PRTR 法対象化学物質の年間取扱量(第一種指定化学物質)

(トン)

化学物質名	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩	0.044	0.031	0.031	0.036	0.034
2-アミノエタノール	0.027	0.025	0.019	0.025	0.027
ポリ(オキシエチレン) = アルキルエーテル	0.025	0.021	0.023	0.026	0.019
N, N-ビス(2-ヒドロキシエチル) アルカンアミド(注 5)	-	-	-	0.017	0.017
銀及びその水溶性化合物	0.031	0.022	0.019	0.012	0.013
鉛及びその化合物	0.000	0.000	0.000	0.000	0.012
その他	0.009	0.008	0.007	0.023	0.043
合計	0.136	0.107	0.098	0.140	0.165

(注 4) 第一種指定化学物質は 1 トン/年以上、特定第一種指定化学物質は 0.5 トン/年以上

(注 5) 2023 年 4 月 PRTR 法改正施行により、対象化学物質に追加

### ■ VOC(揮発性有機化合物)

VOC の排出規制対象となる特定施設はありませんが、自主的な取り組みとして VOC 取扱量の維持管理を行っています。

取扱量は、2012～2014 年度の平均 1.266 トン以下に抑制することを目標として取り組みました。2024 年度実績は、エタノールが清掃・除菌などに使用する薬品を対象に加えたことにより増加していますが、全体としては 0.905 トン(28.5%減)となり目標を達成しました。

#### VOC の年間取扱量

(トン)

化学物質名	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
イソプロピルアルコール	0.790	0.809	0.465	0.360	0.346
酢酸ブチル	0.046	0.058	0.074	0.040	0.046
エタノール	0.097	0.053	0.052	0.110	0.484
その他	0.017	0.018	0.023	0.014	0.028
合計	0.950	0.938	0.614	0.524	0.905

### ■ 温室効果ガス

当社で取り扱っている 2024 年度の温室効果ガス取扱量は以下の通りです。2024 年度の年間取扱量を二酸化炭素に換算すると約 8 トンに相当します。取扱量の削減目標は、当社事業所全体の温室効果ガス総排出量削減として取り組んでいます。

#### 温室効果ガスの年間取扱量(二酸化炭素換算)

(トン)

化学物質名	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
1・1・1・2-テトラフルオロエタン(HFC-134a)	11.517	7.061	6.155	4.119	7.669
1・1-ジフルオロエタン(HFC-152a)	0.054	0.059	0.233	0.107	0.000
二酸化炭素	0.001	0.000	0.000	0.020	0.005
合計	11.572	7.120	6.388	4.246	7.674

## 環境法令遵守

事業所とその周辺の環境保全と法令遵守の観点から、水質、騒音／振動の定期的な測定を実施しています。

### ■水質測定結果

本社、ProDeS センター、PFU テクノワイズ高松倉庫では、事業所からの排水の水質維持に取り組んでいます。測定の結果、測定値は法規制値を超えておらず、水質に問題はありませんでした。

	規制項目	単位	法規制値	2024 年度測定値	判定
本社 (A・B棟)	水素イオン濃度(pH)	—	5 を超え 9 未満	8.2	○
	生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	600 未満	290	
	浮遊物質質量(SS)	mg/L	600 未満	330	
	鉱物油	mg/L	5 以下	0.5 未満	
	動植物油	mg/L	30 以下	11	
	アンモニア性窒素,亜硝酸性窒素,硝酸性窒素含有量	mg/L	380 未満	15	
本社 (E棟)	水素イオン濃度(pH)	—	5 を超え 9 未満	7.9	○
	生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	600 未満	1.3	
	浮遊物質質量(SS)	mg/L	600 未満	2	
	鉱物油	mg/L	5 以下	0.5 未満	
	動植物油	mg/L	30 以下	0.5 未満	
	アンモニア性窒素,亜硝酸性窒素,硝酸性窒素含有量	mg/L	380 未満	15	
本社 (電波暗室)	水素イオン濃度(pH)	—	5 を超え 9 未満	8.0	○
	生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	600 未満	2.5	
	浮遊物質質量(SS)	mg/L	600 未満	1	
	鉱物油	mg/L	5 以下	0.5 未満	
	動植物油	mg/L	30 以下	0.5 未満	
	アンモニア性窒素,亜硝酸性窒素,硝酸性窒素含有量	mg/L	380 未満	1	
ProDeS センター	水素イオン濃度(pH)	—	5 を超え 9 未満	8.6	○
	生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	600 未満	82	
	浮遊物質質量(SS)	mg/L	600 未満	72	
	鉱物油	mg/L	5 以下	0.5 未満	
	動植物油	mg/L	30 以下	8.8	
	アンモニア性窒素,亜硝酸性窒素,硝酸性窒素含有量	mg/L	380 未満	10	
PFU テクノワイズ 高松倉庫 (2・3棟)	水素イオン濃度(pH)	—	5 を超え 9 未満	7.5	○
	生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	600 未満	2	
	浮遊物質質量(SS)	mg/L	600 未満	3	
	鉱物油	mg/L	5 以下	1 未満	
	動植物油	mg/L	30 以下	1 未満	
	アンモニア性窒素,亜硝酸性窒素,硝酸性窒素含有量	mg/L	380 未満	0.6	

## ■騒音／振動測定

本社では、事業活動に伴い発生する騒音及び振動の測定を定期的に行っています(1回/5年)。2020年6月10日に測定を実施し、いずれも法規制値を下回ることを確認しました(次回測定は2025年度実施予定)。

### 騒音測定結果

	騒音項目	単位	法規制値	2020年度測定値				判定
				E棟北側	A棟南西側	電波暗室北側	南側駐車場	
本社	昼間	dB	65以下	34	47	46	—	○
	朝	dB	60以下	34	47	46	—	
	夕	dB	60以下	34	47	46	—	
	夜間	dB	50以下	34	47	46	—	
	昼間	dB	60以下 (注6)	—	—	—	40	
	朝	dB	55以下 (注6)	—	—	—	40	
	夕	dB	55以下 (注6)	—	—	—	40	
	夜間	dB	45以下 (注6)	—	—	—	40	

(注6)学校の敷地境界線より50m以内の区域にあるため、5デシベル減じた規制値となります。

### 振動測定実績

	振動項目	単位	法規制値	2020年度測定値				判定
				E棟北側	A棟南西側	電波暗室北側	南側駐車場	
本社	昼間	dB	65以下	27	30	31	—	○
	夜間	dB	50以下	27	30	31	—	
	昼間	dB	60以下 (注7)	—	—	—	29	
	夜間	dB	45以下 (注7)	—	—	—	29	

(注7)学校の敷地境界線より50m以内の区域にあるため、5デシベル減じた規制値となります。

## 主な受賞履歴、認証等

- 1992年 省エネ推進石川県知事表彰受賞  
 1994年 エネルギー管理優良工場中部通産局長賞受賞  
 1999年 エネルギー管理優良工場資源エネルギー庁長官表彰受賞  
 2002年 いしかわグリーン企業知事表彰受賞  
 2010年 第14回「環境経営度調査(日経)」製造業ランキング 31位  
 オフィス機器の米国独立評価機関 BLI 社よりスキャナ部門「年間最優秀ラインナップ賞 (Line of the Year)」受賞情報セキュリティ格付「A is」を取得  
 2011年 省エネ推進/高効率反射板設置 石川県職域創意工夫功労者表彰(津田米次郎賞)受賞  
 2013年 エネルギー管理優良事業者日本電気協会北陸支部会長表彰受賞(ProDeS センター)  
 2014年 「ScanSnap SV600」が「価格.com プロダクトアワード 2013 スキャナ部門」銀賞を受賞  
 石川県「いしかわ版里山づくり ISO」認証  
 2015年 標的型サイバー攻撃・内部対策アプライアンス「iNetSec Intra Wall」が Interop Tokyo 2015「Best of Show Award」でグランプリを受賞  
 横浜市「ハマロード・サポーター」認定  
 2016年 エコマークアワード 2015 受賞(イメージスキャナー)  
 2017年 エネルギー管理優良事業者日本電気協会北陸支部会長表彰受賞(本社)  
 2018年 健康優良法人～ホワイト 500～に認定(PFU グループ)  
 2019年 女性活躍推進法に基づくえるばし最高位の認定を取得(PFU)  
 「fi-800R」が 2019 年度グッドデザイン賞を受賞  
 健康優良法人～ホワイト 500～に認定(PFU グループ)  
 the China Environmental Label Excellence Enterprise Award 受賞(富士通情報システム(深圳)有限公司)  
 2020年 健康優良法人 2020(大規模法人部門)に認定(PFU グループ)  
 いしかわエコデザイン賞 銀賞を受賞(BIP Smart)  
 KAIKA Award KAIKA 賞を受賞(Rising-V 活動)  
 2021年 健康優良法人 2021(大規模法人部門)に認定(PFU グループ)  
 「ScanSnap iX1300」が 2021 年度 グッドデザイン賞を受賞  
 PFU の米国子会社 Fujitsu Computer Products of America, Inc. が環境への取り組みを評価され「U.S. EPA 2021 SmartWay®Excellence Award」を受賞  
 2022年 健康優良法人 2022 (大規模法人部門)に認定(PFU グループ)  
 がん対策推進優良企業として表彰受賞  
 2024年 「いしかわ健康経営宣言企業」に 5 年連続認定  
 いしかわエコデザイン賞 金賞を受賞(廃棄物分別特化 AI エンジン Raptor VISION)  
 2025年 BCN スキャナ部門 15 年連続シェア No.1 を獲得  
 「2025 J-Win ダイバーシティ・アワード」の企業賞 ベーシック部門、大賞を受賞  
 NEDO 懸賞金活用型プログラム「NEDO Challenge, Li-ion Battery 2025」にて 1 位獲得



変わらぬ想い、変えてゆく未来。

PFU 環境報告書 2025

■発行■ 2025年6月(第1版)  
株式会社 PFU  
総務統括部 ESG 推進部  
〒929-1192 石川県かほく市宇野気ヌ 98-2  
TEL 076-283-1212(代)

© PFU Limited 2025